

第11回高知県海岸保全基本計画推進委員会

— 議事概要 —

開催概要:

日 時： 2026年（令和8年）1月23日（金）14:00～15:00

場 所： 高知城ホール 4階多目的ホール

出席者:

会 長：	高知工科大学 名誉教授	磯部 雅彦
副会長：	高知工科大学 教授	佐藤 慎司
委 員：	国土交通省四国地方整備局 高知河川国道事務所 所長	渡邊 国広
委 員：	国土交通省四国地方整備局 高知港湾空港整備事務所 所長	野本 啓介
委 員：	高知県商工会議所女性会連合会 会長 梶原 絹代 (代理：副会長)	勝木田 泰子
委 員：	高知NPO	細木 美津
委 員：	NPO高知県ヨットクルージング ネットワーク 理事	川上 壽一
委 員：	香南市長 濱田 豪太 (代理：副市長)	別府 誠

配布資料:

- ① 議事次第
- ② 配席図
- ③ 高知県海岸保全基本計画推進委員会_設置要綱
- ④ 資料1：第11回高知県海岸保全基本計画推進委員会_説明資料
- ⑤ 資料2：新旧対比表（海部灘沿岸、土佐湾沿岸、豊後水道東沿岸）

開催状況：



写真 1 第 11 回委員会の開催状況

【主な意見】

(川上委員) 資料-1 p.14で示している最大津波水位の将来変化に関する質問であるが、南海トラフ地震が発生すると室戸岬、足摺岬では地盤が隆起し、中央部では沈降し、変化量は1mを超えるとも言われている。今回提示している津波水位の変化は、これらの地盤変化を加味したものなのか。

(事務局) 隆起、沈降といった地盤の変動を考慮して津波シミュレーションを実施している。将来、堤防を整備するにあたっては、地盤が沈降する場合は今回提示した津波水位に地盤沈降量を加味して整備していくこととしている。現在整備中の高知港海岸の三重防護等についても、このような考え方で整備を進めている。

(川上委員) 地盤が隆起する場合は問題ないと考えるが、沈降する場合、特に土佐湾中央部では人口が密集していることから、対策の安全性が懸念される。

(事務局) 地盤の沈降に加えて、地盤の液状化による堤防の沈下も考慮した上で、津波が堤防を乗り越えないような堤防の高さを検討して整備を進めている。一部、地域住民との合意によって、堤防の高さを低くする場合等もあるが、基本的には津波から背後を守るという方針で整備を進めている。

(川上委員) 南海トラフ地震が概ね110年周期で発生していることを踏まえると、前回の昭和東南海地震が1944年、昭和南海地震が1946年に発生していることから、2050年前後に、現在の対策の効果が確認できるものとする。

(磯部委員長) 概ね数十年から百数十年に1回発生する津波に対して、津波が堤防を越波・越流しないように対策を検討している。高知市内は南海トラフが滑ることで地盤自体が下がることと、地震のときの揺れによって液状化という現象が発生することの2つの理由で堤防が沈下する。両方とも少し安全側に見込んでおり、不確実な部分もあるが、少なくとも安全側に見込んでいるので、安心と考えている。

(勝木田委員) 資料-1 p.14で「三重防護あり」との記載があるが、これは三重防護が完成した場合を想定しているのか。

(事務局) 三重防護の施設計画完成後を想定したシミュレーションを実施している。

(佐藤副委員長) 資料-1 p.25に記載されているハード対策について、離岸堤については嵩上げも考えられるが、消波ブロックの集合体なのでブロックが飛散しないように重量を重くしたり、ワイヤーなどで連結したりすることも必要になると考えられる。ヘッドランドの記載と同様に、「離岸堤の嵩上げ・改良」と記載したほうが良いと考える。また、同じページの侵食のソフト対策の箇所でもモニタリングの記載があるが、モニタリングは対策ではない。高潮・高波対策と同様に、「都市計画の調整」、「防護ラインの見直し」が対策になると考える。もう一つ、資料-1 p.30の一番下にグリーンレーザーやドローンなどの新技術の記載があるが、最近では衛星が活用されるようになってきていることから、衛星リモートセンシングも追加していただけたらと考える。

(事務局) ご意見を踏まえて、資料の該当部分を修正するとともに、海岸保全基本計画案の方にも、一部反映をさせていただく。なお、侵食のソフト対策については、モニタリングも重要であるため、この部分は残しつつご意見を踏まえた修正をさせていただく。

(渡邊委員) 同じ資料-1 p.25のソフト対策の部分で、p.24で記載されている浸水想定やハザードマップの記載が抜けているので、追記したほうが良いと考える。

(事務局) ご意見を踏まえて、資料の該当部分を修正する。

(磯部委員長) 高知県ではハザードマップや、津波シミュレーションの浸水アニメーションなど、他の都道府県と比較して、非常にわかりやすい情報が公表されている。是非、PRを行い、県民に見ていただき、避難活動が出来るようになるのはとても重要なことと考える。

(事務局) 本日もご欠席の濱野委員からのご意見を説明させていただく。1点目の意見は、気候変動の影響により、魚がとれなくなるというご懸念でした。2点目のご意見は、栢島周辺は閉じられた地形であるため、台風時の高潮・高波、地震時の津波に対して、比較的安全であるという意識が地元住民にはあるということでした。ただし、常々考えられているご意見として、避難路を整備してほしいとのことでした。市町村によって避難路等の整備が十分進んでいる状況にある一方で、地元住民は、自分の住まいからどのように避難すればよいのか、まだ十分に分かっていない状況とのことでした。市町村へのアンケート調査時にも、同じようなご意見をいただいていることから、高知県としても、引き続き、海岸保全基本計画に明示している、広報活動と周知徹底を実施していきたいと考える。また、海岸堤防の裏側の管理通路について、避難路として利用できるのであれば蛍光板、矢印板のようなものを設置していただきたいというご意見もいただいた。今後、市町村とも調整しながら、ソフト対策、ハード対策の整備を進めていきたいと考える。

(磯部委員長) 最近は少なくなっているが、高知県は高潮の常習地帯であり、以前は大きな台風がたくさん上陸していたことから、他の都道府県と比べると、高潮に対する堤防整備はかなり進んでいる。東日本大震災以降は、南海トラフのプレート型地震によって発生する津波が注目されているが、もともと高潮のために高い堤防が整備されてきたことから、数十年から百数十年に1回発生する津波に対しては、防護できる箇所もあるし、液状化対策を実施することで十分な箇所もある。高知県の西側では堤防の嵩上げが必要な箇所が多いが、津波の1波目はそれほど高くないことから、これを防いで避難時間を稼ぐことが可能な状況にある。また、海岸に高台が迫っている箇所が多いことから避難路を整備するだけで、早急な避難が可能になる。高知市のように市街地にビルがある箇所では、

ビルを津波避難ビルに指定すれば、そこへ避難することも可能である。高知県内で高台も津波避難ビルもないような代表的な箇所は香長平野であるが、現在約120基の津波避難タワーが整備されている。600m毎に1基整備されていることから、西か東に300m歩けば避難することが可能である。高知県では避難する意思があり、避難行動をとれば、全員が助かるような状況にあり、こういったことを県民に認知してもらうことは重要であることから、高知県にさらなる広報活動をお願いしたいと考える。気候変動によって海面が上昇しても、現在の安全性が失われないようにすることが、今回の海岸保全基本計画の変更の位置づけになると考える。

(勝木田委員) 高知県の出生率が大変少なくなっていること、人口減少に歯止めがかかっていないことを私たちは懸念している。特に若い女性の流出が著しい状況にある。県外から高知へ旅行に来ていただいた方には楽しいと思っていただけるのだが、移住するには抵抗があるようである。要因としては津波への恐怖等が考えられる。磯部委員長のご意見のとおり、津波に対する安全性も含めた広報を高知県にしていいただければ良いと考える。

(渡邊委員) 勝木田委員のご意見を踏まえると、住民だけではなく、観光客や外部の人に対しての情報発信というのも重要になってくるものと考え。海岸保全基本計画案に、地域住民の参画と情報公開や、計画推進体制の確立などが記載されているが、住民以外の外部の人に関する記載もあったほうが良いと考える。

(事務局) ご指摘のとおり、資料-2の土佐湾沿岸の新旧対照表のp.71では、住民という限定的な表現をしているので、住民以外の方も含めて幅広くお伝えできるようにといった主旨で修正したいと考える。県のホームページ等でも、県外の方にアピールできるような方法等も模索していきたいと考える。また、政策提言活動等を通じて、内外にアピールしていくように進めていきたいと考える。

(細木委員) 勝木田委員、渡邊委員のご意見に関することであるが、今、インバウンドで高知県には大きな船がたくさん入ってきている。彼らは、津波や地震などをあまり気にしていないようであるが、もし地震・津波が発生した場合にどこへどのようにして避難すれば良いのかといったアナウンスを船やシャトルバスの中でもっと実施すべきであると考え。

(磯部委員長) 確か石垣島だと思うが、旅行者などへ避難行動に関するアナウンスを積極的に実施していたかと記憶している。他県の例等も参考にして、旅行者等の安全を確保するための工夫は必要であると考え。高知県では、津波に対する対策は相当進んでいると考えるが、津波で有名になったが故に、旅行者は危険を

感じるということもあることから、津波対策が進んでいることを、きちんと伝えるべきだと考える。

(磯部委員長) 委員会としては、本日のこの会議で高知県海岸保全基本計画について了承をする。委員からのご意見を反映して最終案にし、ヒアリング等を進めていただくことになる。